

地域に新たな価値をー桑名広域清掃事業組合可燃ごみ処理施設ー

荏原環境プラントが施工

6MPa×450℃の高温高圧ボイラー 最上階には天空シアター

三重県の桑名広域清掃事業組合の可燃ごみ焼却施設が、昨年末に竣工し、1月1日に供用開始した。新施設は、処理能力174t/日(87t/日×2炉)のストーカ式で、6MPa×450℃の高温高圧ボイラーにより、発電効率22.9%を実現している。今回の事業はDBO方式で行われており、総合評価方式の一般競争入札で荏原環境プラント(株)が代表企業とするグループが事業者として選定され、今年1月から20年にわたる運営は同社が出資するSPPC(特別目的会社)の(株)わななサービスが行っている。ごみ処理の経験やノウハウを十分にもっており、しっかりと「エハラHPC21型ストーカをはじめとする同社が手



処理能力174t/日のストーカ式ごみ焼却施設で、今年1月に稼働を開始した

DBO方式で事業を実施

桑名広域清掃事業組合は、桑名市、いなべ市、木曾町、東員町の2市2町で構成され、1977年に設立されたが、来年4月からはいなべ市が抜けることになる。同組合では、これまで三重県が主体となっていたDBO方式のRDF焼却・発電事業を終了したが、これが、2014年8月にごみ処理施設整備委員会を設置、検討を続けた結果、16年2月にはDBO方式で実施することを決定した。これを受け、総合評価方式の一般競争入札を実施し、2グループが参加する中、荏原環境プラント(代表企業)とするグループが事業者として選定された。DBO方式を採用したことにより、同組合の藤田和久事務局長兼業務課長は、稼働からこれまでについて、「大きな問題はない」としており、「荏原環境プラントは、ごみ処理の経験やノウハウを十分にもっており、しっかりと

桑名広域清掃事業組合 藤田事務局長に聞く

「遠隔リモート、心強い」

桑名広域 昨年末に施設が竣工し、1月から稼働を開始した。業務の移転も完了しているが、同組合の藤田和久事務局長兼業務課長に話を聞いた。



「遠隔リモート、心強い」
桑名広域 昨年末に施設が竣工し、1月から稼働を開始した。業務の移転も完了しているが、同組合の藤田和久事務局長兼業務課長に話を聞いた。



岡本有弘氏



石宇敦所長

「遠隔リモート、心強い」
桑名広域 昨年末に施設が竣工し、1月から稼働を開始した。業務の移転も完了しているが、同組合の藤田和久事務局長兼業務課長に話を聞いた。



焼却炉にはエハラHPC21型ストーカシステムを導入



高温高圧ボイラーの採用で、発電効率22.9%を実現

「遠隔リモート、心強い」
桑名広域 昨年末に施設が竣工し、1月から稼働を開始した。業務の移転も完了しているが、同組合の藤田和久事務局長兼業務課長に話を聞いた。



絵本シアターでは「モフリン」がお出迎え



幅22mの大画面。天空シアターは迫力満点

「遠隔リモート、心強い」
桑名広域 昨年末に施設が竣工し、1月から稼働を開始した。業務の移転も完了しているが、同組合の藤田和久事務局長兼業務課長に話を聞いた。

「遠隔リモート、心強い」
桑名広域 昨年末に施設が竣工し、1月から稼働を開始した。業務の移転も完了しているが、同組合の藤田和久事務局長兼業務課長に話を聞いた。

廃棄物の専門誌「都市と廃棄物」

行財政、研究開発、技術管理、経済・文化から国際協力までを越ワイドな視野で記録報道!

【編集方針】

廃棄物に関する技術情報を主テーマに取り上げ、業界のパイオニアとしての使命を果たしております。さらに行政、法律など保存すべき資料の集中掲載、業界話題の取材報道などきめ細かくタイムリーな情報の提供を行っています。

埋立処分、焼却・溶融、破碎・回収・再商品化、収集・運搬、し尿汚泥土壌浄化、分析測定、アセス、認証、PFI、エコビジネス、国際交流……と多様化する内外事情を的確、詳細に伝え伝統と見識ある媒体です。

- 創刊 昭和46年(1971)5月
- 体裁 A4判 横組
- 頁数 64頁~160頁
- 発行日 月刊(毎月1日発行)
- 配布方法 購読者に直接郵送のほか、政府刊行物サービスセンター等を通じ全国書店にて販売
- 購読料 年間 18,900円+消費税(各号1,575円+送料)

お申し込みは FAXまたはE-mailで

FAX: 03-3437-0074

E-mail: syoseki@kankyosangyo.co.jp

業界唯一のパイオニア月間雑誌!

環境産業新聞社

〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-9 TEL03-3437-0087

※わくわくはホームページをご覧ください。

kankyosangyo

検索